



アメリカの新しい大統領が誕生しました。合言葉は「Yes We Can」(そう、私たちはできるんだ)長い人種差別社会の中で、不可能と思われたことが可能となりました。思いは通じます。何事にもあきらめないで、思い、念じて実現を目指しましょう。きっといい結果が訪れます。

<第161回 ほほえみの会>

最近入院をした方4人を含む6人の参加でした。

- ▽ 小学6年生の女子、急性骨髄性白血病。9月上旬に本人から、最近良くぶつけてあざを作るという話があった。今思えば顔色も悪かった。運動会など行事も多く本人もがんばっていたが、ある日体を見ると全身にあざがあり、出血斑があった。総合病院で血液検査をしたところ白血球と血小板の異常がわかり、すぐにこども病院へ来てそのまま入院をした。
- あざを見て、親は不安になっていたのが病気が明確になってよかった。しかし、なぜ1ヶ月もほっておいたのか、後悔の念がある。もっと早く病院へ連れて行けばよかった。
- また、本人への告知も最初にしてくれたのが良かった。治療は長丁場になるだろうが、病気をきっかけに本人も強くなってくれることを願う。親もがんばっている姿を見せていきたい。
- ▽ 小学6年生女子、急性リンパ性白血病。8月の後半からせきが出るようになり、個人病院でレントゲンを撮ってもらったところ、白い影が見えた。総合病院を経てこども病院へ。当初、病名がはっきりせず悪性リンパ腫の疑いで治療に入ったが、その後白血病という診断が下った。
- 生まれた時から大きく、病気知らずの丈夫な子供だった。なぜ病気になったのか、悪いものでも食べさせたのではないかと悩む。フルタイムで働き、子どもに寂しい思いをさせても仕事は休めないと思ってやってきた。病気はこうした自分に対する罰ではないかと思い、仕事は全て辞めた。看病は母親の出番だと思う。

- ▽ 中学2年生女子、急性リンパ性白血病。10月末に顔色が悪く、家族で健康診断を一緒に受けて血液検査もした。そこで異常がわかり、市立病院からこども病院へ。
- 一人っ子でこれまで本当に手のかからない、しっかりした子供だった。入院したばかりでまだ気持ちの整理ができない。本人は携帯小説が好きでよく読むが、内容は交通事故か、白血病が多いようだ。親子そろって告知を受けたが、本人は携帯小説から治らない病気というイメージを持っていたかもしれない。治癒率が高い説明も受けた。面会にも毎日通って親子で一緒にがんばりたい。
- ▽ 4歳の男の子、急性リンパ性白血病。9月から微熱が続き近くの医院で診てもらっていたが治らない。夏の疲れかと思っていたが10月になり顔色も悪くなって、熱も下がらないので、血液検査をしてもらい、異常がわかった。
- これまでは風邪も引かない元気な子供だった。体にあざもあったがいつも元気に駆けまわっていたので気が付かなかった。病気はハイリスクだと言われてショック、治療も計画通りには行かないかもしれないといわれ、日が経つに連れて不安が増してきた。大丈夫だろうか。
- 子どもの病気は母親の行いが悪かったのかとも思うが、きっと神様はこの辛さを乗り越えられる人に試練を与えているのだと思う。また今後、親戚や近所の人達にどう説明したらいいのかも悩む。
- ▽ 「がんの子どもを守る会」が病棟の子ども達にクリスマスプレゼントをくれることになりました。なにが届くか楽しみにしましょう。

次回は 12月 14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>